

ガンダーラの

仏教彫刻と生天思想

田辺理 著

A5判上製函入 本文五二〇頁 口絵八頁 ISBN 978-4-8055-0966-1 C3071

定価一七、六〇〇円

(本体一六、〇〇〇円+税一〇%)

二〇二二年十二月刊



「ディオニューソス神の眷属による酒宴・交歓」(個人蔵)

ガンダーラの仏教美術は、十九世紀末に欧米の学者による本格的な研究が開始されて以来、様々な考察が行われてきたが、未だに解明されていない問題がいくつも存在する。

本書は、一見ただけでは仏教と関係があるか否かわからない、ガンダーラの非仏教的な外観の彫刻に着目し、ローマ美術や古代インドの仏教美術との比較考察を行うことにより、ガンダーラの仏教彫刻と生天思想が深く関連していることを解き明かす。東西美術の架け橋となる画期的な研究成果である。

東西の美術を繋ぐ、仏教彫刻の新知見

目次

序論

第一章 ガンダーラ研究の課題と本書の視座

第二章 ガンダーラの名称・歴史・美術

第一部 生天思想について

第一章 生天思想とは

第二章 天界の様相

第三章 生天の方法

第四章 ガンダーラにおける生天思想の存在

第二部 非仏教的な外観の彫刻と生天思想

第一章 デイオニューロス神と眷属の画像の

第二章 ガンダーラの仏教彫刻における
——酒宴図、舞楽図、性愛図の新解釈——
ザール・デーリー仏寺址出土の

第三章 ポストン美術館所蔵ガンダーラの

第四章 ガンダーラの仏教彫刻に表現された
娼婦と娼館の比定

第三部 仏塔階段の非仏教的な外観の彫刻と生天思想

第一章 ガンダーラの獅子座型浮彫の画像の新解釈

第二章 イルカを双肩に担ぐトリートン像の起源と展開

第三章 仏塔階段側桁の三角形浮彫の意義について

付論 ガンダーラの

「アームラパーリーによるマンゴー園の寄進図」の再考察

結論

初出一覧／あとがき／参考文献一覧／図版出典一覧／

英文概要／英文目次／索引

【著者略歴】田辺 理（たなべ・ただし）

1979年東京都に生まれる。2009年大阪大学大学院文学研究科文化形態論専攻修士課程修了。2015年早稲田大学大学院文学研究科博士課程修了、文学博士学位取得。日本学術振興会 PD 特別研究員、ミュンヘン大学インド学・チベット学研究所客員研究員となり、現在京都大学白眉センター・文学研究科特定准教授。専門はガンダーラ仏教美術史、比較美術史。

学術論文：「ガンダーラの「アームラパーリーによるマンゴー園寄進図」の再考察 — 画像の典拠と水瓶をめぐる —」（『オリエント』第56巻第1号）、「インド古代美術に見られるナーガ王の舍利容器供養と仏塔供養 — ラーマ・グラマの仏舍利供養の主題を巡って —」（『美術史』第178冊）、「ガンダーラの仏教彫刻に見られる右手の二本の指を立てる仕草の起源と意味」（『密教図像』第35号）、他21編。

関連書籍

アジア仏教美術論集 中央アジア I (ガンダーラ～東西トルキスタン)

宮治昭 責任編集 定価 6,380円 (本体 5,800円 + 税 10%)

第一線の研究者らによるアジアの仏教美術研究の現在の到達点と将来の展望を示す待望の新シリーズ。本巻は中央アジアをめぐる千余年の仏教美術史をより広い視野で捉えなおし、多様な展開を読み解く気鋭の論考19篇。

A5判上製カバー装 本文 600頁 2017年2月刊
ISBN 978-4-8055-1127-5

敦煌美術東西交界史論

田林啓 著 定価 16,500円 (本体 15,000円 + 税 10%)

敦煌は古来より東西の様々な文化が交差する地であり、世界最大の仏教石窟寺院、莫高窟の諸石窟は時代とともに複雑な展開をたどった。中国の南朝時代から唐代を経て五代へ至る各時代の諸石窟について、最新の研究成果をもとに詳細な検討を加え、敦煌様式の特徴を浮かび上がらせる。

A5判上製函入 本文 462頁 口絵 8頁 2022年3月刊
ISBN 978-4-8055-0960-9

中央公論美術出版

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-10-1
IVYビル 6F

Tel: 03-5577-4797 Fax: 03-5577-4798

お取り扱いは